

# 桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.foo.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。  
どなたでもご参加いただけます。  
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

## 第35回

2015年  
**12月19日(土)**  
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料

☆終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



## ロシアのジャポニズム — 2つの「ミカド」をめぐって

### スタニスラフスキイと日本人軽業師

報告者：大島幹雄

#### スタニスラフスキイに「日本」を教えた日本人とは

1887年冬スタニスラフスキイは「ミカド」を上演するために、日本人軽業師を家に招き、日本風の所作を学んだ。

この日本人は一体誰だったのか？ モスクワ芸術座博物館に残された絵ビラとスタニスラフスキイ博物館にある二枚の写真を手がかりにこの謎に迫る。

#### ●大島 幹雄(おおしま みきお)

サーカスプロデューサー。著書に『サーカスと革命』(水声社)、

『明治のサーカス芸人はなぜロシアに消えたのか』(祥伝社)、

『サーカス学誕生』(せりか書房)など。



モスクワ芸術座所蔵の絵ビラ



スタニスラフスキイ博物館所蔵の写真

### 19世紀末のロシア・バレエにおける日本文化受容

報告者：斎藤慶子



『ミカドの娘』(『皇室劇場年鑑』1897年度)

#### 『ミカドの娘』の劇中劇は、なんと「忠臣蔵」!

「忠臣蔵」が19世紀末のロシアで、しかもバレエ劇場で上演されていた。これは世界の舞台における「忠臣蔵」上演例の中でもかなり早いうちに入る。

19世紀末のロシアで日本文化を題材にしたバレエ作品が続いて3本上演された。『ダイタ』(1896)は日本の音楽文化を、『ミカドの娘』(1897)は文学作品を取り入れた例として、そして『月から日本へ』(1900)はロシア貴族たちの日本文化への高い関心を示す事例として紹介したい。(本報告は2015年ICCEESで行った報告を元にして)



『月から日本へ』が初演されたクレインミヘル邸

#### ●斎藤 慶子(さいとう けいこ)

2010年 リムスキー=コルサコフ記念国立サンクト・ペテルブルグ音楽院舞踊学科舞踊史コース卒。

早稲田大学大学院文学研究科ロシア語ロシア文化コース博士後期課程在籍。